

イベントを活用した普及啓発の取組

～いしかわ環境フェアを通じて得られた知見の共有～

石川県気候変動適応センター
(石川県生活環境部温暖化・里山対策室)

石川県気候変動適応センターについて

- 事務局：石川県生活環境部温暖化・里山対策室 【職員数5名（兼任）】
- 設置年月：令和2年4月（設置要綱に規定）
- 設置目的：気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理及び提供等を行い、本県における気候変動適応を推進する
- 業務内容
 - ①国立環境研究所主催のセンター定例会議等への参加
 - ②気候変動適応中部広域協議会への参加
 - ③府内連絡会の開催
→各分野の担当課を召集し、気候変動に関する情報共有、今後の適応策推進の在り方を議論
(過去の開催実績：H26,29,30,R2年度)
 - ④情報発信
→「いしかわ気候変動適応センター通信」の発行や「いしかわ環境フェア」（※R2,R3年度は中止となり、代替事業を実施）」等の開催による県民への普及啓発
- ※R2年度：気候変動適応を中心としたパネル展「いしかわ環境展」を開催 (R2.10～12)
- ※R3年度：「使い捨てプラスチックごみ削減フェア」で適応に関するパネルを展示 (R4.1)

いしかわ環境フェアについて①

<いしかわ環境フェアとは> ※平成2年度より開催、今年で31回目

環境に関する様々な展示や体験を通じて、県民一人ひとりが
「見て」「触れて」「体験して」楽しみながら人と環境との
関わりについて理解を深め、環境にやさしい暮らしを実践する
契機としてもらうことを目的に開催している環境イベント。



【場所】
石川県
産業展示館
4号館

いしかわ環境フェアについて②

①いしかわ環境フェア（H 2～）

目的：持続可能な社会（脱炭素社会、循環型社会など）の実現に向けた生活スタイルの提案

主催：(公社)いしかわ環境パートナーシップ県民会議
⇒石川県地球温暖化防止活動推進センター

②いしかわの里山里海展（H 2 2～）

目的：自然と人との共生（生物多様性・里山里海の利用保全など）

主催：いしかわ里山づくり推進協議会（農林水産部所管）

③いしかわ近未来の環境技術展（H 2 5～）

目的：新しい環境産業の創出（省エネ・再エネなどの環境技術革新）

主催：石川県（生活環境部所管）

同じ会場内で上記3つのイベントを併せて実施しており、
行政機関、民間企業・団体、大学など、幅広い出展者が参加。

令和2年度「いしかわ環境展」①



環境フェアの代替事業として、

- ・プラスチックごみ対策
- ・食品ロスの削減
- ・気候変動への適応
- ・里山里海の保全 など

出展団体による取組を
パネル等で紹介。

【期間・場所】

R2.10.27～11.4 (9日間)

- ・石川県庁19階「展望ロビー」

R2.11.26～12.2 (7日間)

- ・地場産業振興センター本館1階
「じばさんギャラリー」

令和2年度「いしかわ環境展」②

パネルの展示だけでは、子どもには伝わらないのでは・・

子どもが立ち寄ってくれそうな
コーナーとしたい。



A-P L A Tの普及啓発ツール
に掲載されている「アンケート
ボード」を活用し、県民の方々
が感じている気候変動にシール
を貼っていただくこととした。

〈反省〉ここから更に
適応策を考えてもらう
仕掛けがあれば・・

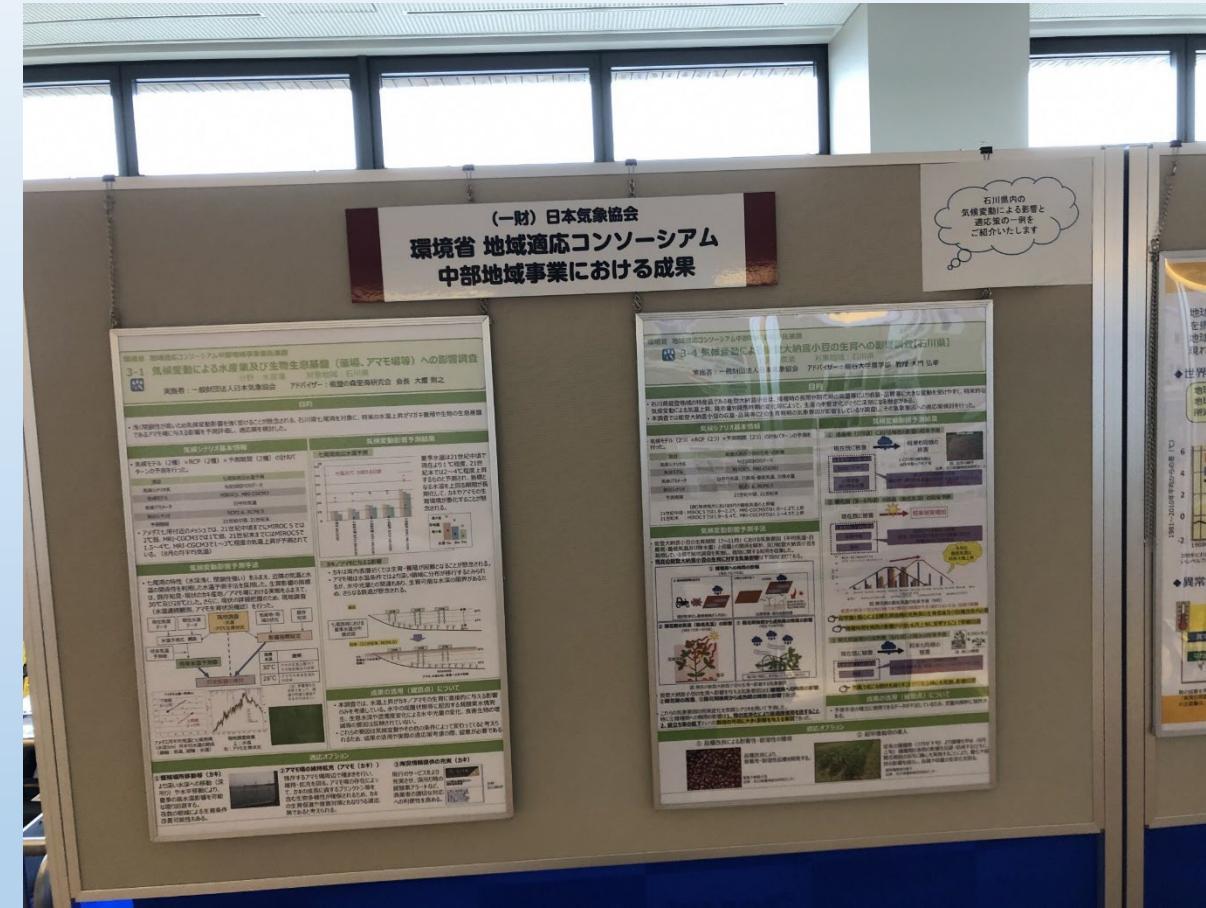


令和2年度「いしかわ環境展」③



府内協力部局

- ・健康推進課（熱中症）
- ・土木部（河川拡幅、堆積土砂除去等）



外部協力団体

- ・(一財)日本気象協会
- ・日本CCS調査(株)
- ・金沢地方気象台
- ・東レ(株)石川工場

令和3年度「使い捨てプラスチックごみ削減フェア」



海洋汚染の原因となっているプラスチックごみ問題などについて学べるセミナーや体験コーナー、環境配慮型製品の展示などを実施。

このイベントのブースにて、気候変動適応に関するパネルを併せて掲示した。

【期間・場所】

R4.1.29

・金沢港クルーズターミナル

令和4年度「いしかわ環境フェア2022」

<開催日時>

令和4年8月20日（土）、21日（日） 9：30～16：30

<開催場所>

石川県産業展示館4号館（石川県金沢市袋町南193）

<開催テーマ>

みんなで！！ストップ温暖化

～カーボンニュートラルの実現に向けて、今わたしたちにできること～

<来場者数>

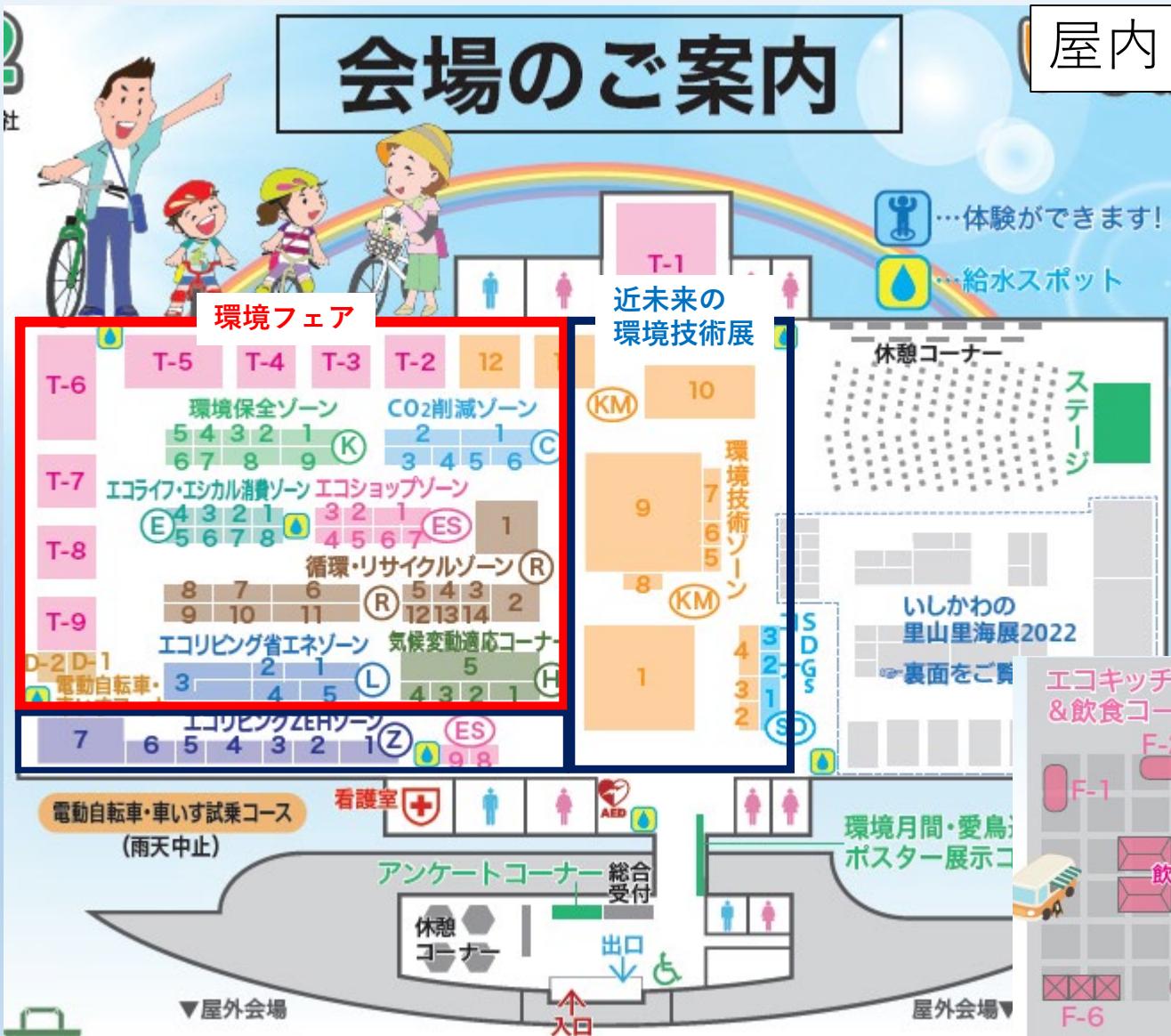
7,000人（2日間合計）

<出展ブース数>

計140ブース（環境フェア、近未来の環境技術展、里山里海展）

※行政機関31（県27）、企業71、その他団体30、飲食8

会場のレイアウト



会場内の様子

体験コーナー



水素の生成・貯蔵・活用までの
一連の流れを体感できるコーナー

ステージイベント



みんなで学ぼう！カーボンニュートラルと天気
～気候変動から石川県のおいしい水を守ろう～

環境イベントとしての取組（一例）

＜ペットボトルの削減＞

- ・マイボトル持参の呼びかけ
→給水スポットの設置
- ・ペットボトル飲料の販売を禁止
→アルミ缶飲料の販売を充実



＜キッチンカーの出展条件＞

- ・県産食材を取り入れる
- ・プラスチック容器・包装等を使用しない
→割り箸（県産木材の間伐材）、紙製ストロー、木製スプーン



気候変動適応コーナー

環境フェアでは初めての
気候変動適応コーナーを設置。

(担当の想い)
パネル等の展示だけではなく、
体験型のコーナーとしたい。

「適応」を知ってもらうこと
に留まらず、自分事として、
気候変動による影響に対する
「適応策」を考えて欲しい。

<p>H-1</p>  <p>国立環境研究所 気候変動適応センター ／石川県「ミライ地球ガチャ」 気候変動に適応するミライを 考える</p>	<p>H-2</p>  <p>石川県気候変動適応センター 県内の気候変動による影響 と適応</p>	<p>H-3</p>  <p>温暖化が進むと 石川県の気象・水資源は どうなってしまうのか？ どの様な影響が表れるのか を実際に体験できます。 (石川県立大学 環境科学科)</p>
<p>H-4</p>  <p>「いしかわ森林環境税」で 未来へ届けるふるさとの森 パネルや木製品の展示など</p>	<p>H-5</p>  <p>リサイクルキャンプ用品 クロスフィールド 気候変動への適応策＝ キャンプを気軽に始めよう！</p>	

石川県気候変動適応センターのブース



石川県の気候変動による影響や適応策についてパネルで紹介。

- ・健康推進課（暑さへの対策）
- ・危機対策課、砂防課（災害への対策）
- ・保健環境センター（蚊への対策）
- ・白山自然保護センター（生物への影響）

国立環境研究所気候変動適応センター／石川県 共同出展ブース

気候変動による影響
に対する「適応策」
を参加者自ら考える
ことで、適応について
知るきっかけとして
もらう体験型ツール
「ミライ地球ガチャ」
を実施しました。

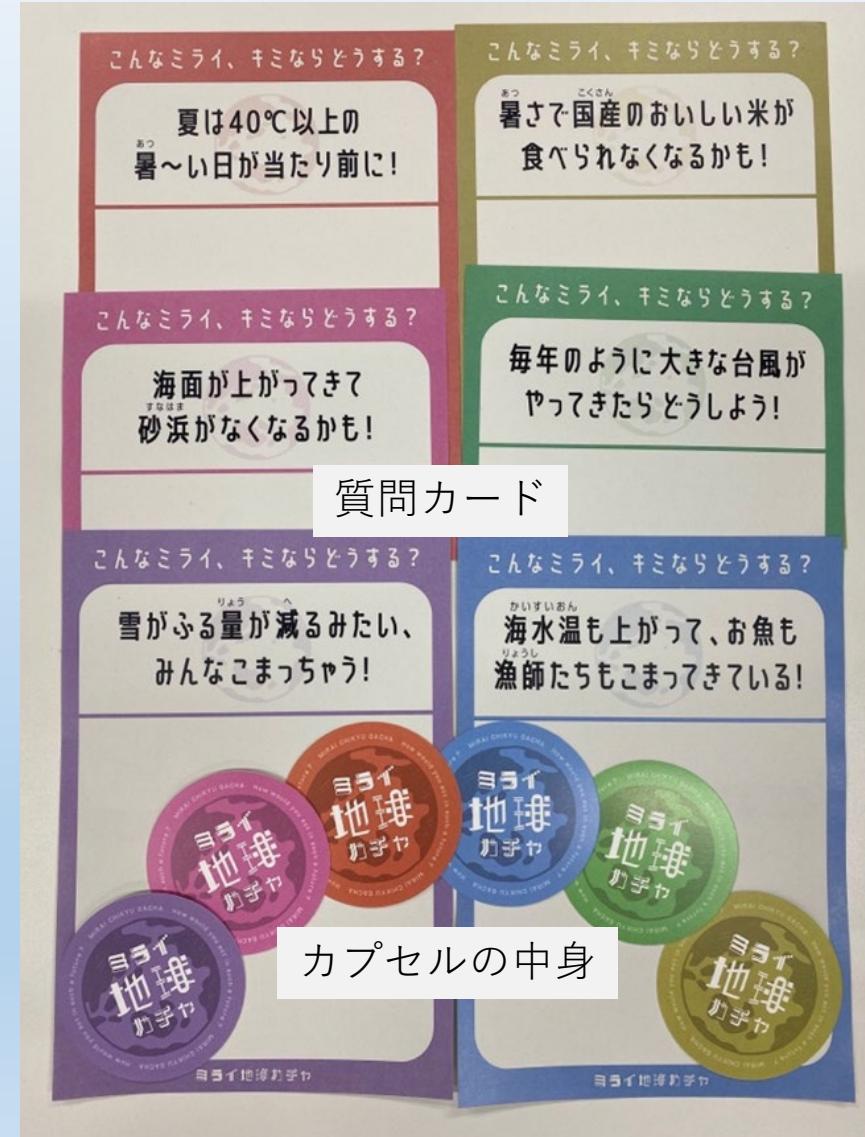


ミライ地球ガチャ 体験の流れ

①ガチャガチャを回す



②出てきたカプセルに入っている質問(6種)に対して、参加者が考える適応策をカードに記入



展示ボード（回答のヒント）※ターコリン

食べ物 の 適応



まさに新しいお米を作ろう



くだもの 日差しから守ろう



見慣れない魚も食べてみよう



すずしい場所へ
風をひんせよう



動物たちを
夏バテから守ろう



しいたけを
病気から守ろう

石川県 の 適応



すずしい穀物にとれる
お米をつくる
[ひやくさん農]



ぶどうを
クーラーで冷やす
[ホビーワンのちづる農園]



花の咲く朝が
笑っている?
[草の君 クロコリ]



ブタも涼しくしてあげる
[ホストに直営でケーブルワン]



大河に備える!
[川の郷ひろばくま]



大河に備える!
[越後ちくみふれ]

「食べ物」「からだ」「暮らし」といった身近なカテゴリーの適応策を例示・紹介。

併せて、石川県独自の適応策を紹介した。

<ポイント>
小学生でも分かりやすいデザインとすることで、適応を知つてもらうためのハードルを下げた

実施結果

順番待ちになるほどの大盛況で、約600枚の質問カードを回収。

来場者へのプレゼントも、2日目の昼には配付終了。



壁面全体が質問カードで埋め尽くされました

石川県民が考える適応策（質問カードへの回答）

①毎年のように大きな台風がやってきたらどうしよう！

⇒災害に強い家を作る、土砂崩れや危ない所から離れて避難する など

赤色：適応策

緑色：緩和策

②夏は40°C以上の暑～い日が当たり前に！

⇒帽子をかぶる、涼しい部屋ですごす、水分や塩分をとる など

③暑さで国産のおいしい米がたべられなくなるかも！

⇒暑さに耐えられるお米を作る、品種改良をする など

④海面が上がって砂浜がなくなるかも！

⇒CO2を減らす、二酸化炭素を出さない発電を行う、砂を足す など

⑤雪がふる量が減るみたい、みんなこまっちゃう！

⇒温暖化が進まないようエネルギー利用量を減らす、雪を保管しておく など

※「雪かきをしないで済むから助かる」といった石川県らしい回答も

⑥海水温も上がって、お魚も漁師たちもこまっている！

⇒節電する、海にごみを捨てない、涼しい所に移動させてあげる など

子どもだけでなく
大人も「緩和策」を
回答している方が
多くいました。

今後の普及啓発について

【これまで】

まずは適応を「**知る**」ことを重視した普及啓発（センター通信、パネル展など）

【今回】

「**知る**」 ⇒ 「**知る、考える**」にステップアップ（ミライ地球ガチャ）

【これから】

「**知る、考える、実践する**」ことに繋がるような工夫が必要
(ミライ地球ガチャの例)

- ①質問カード「毎年のように大きな台風がやってきたらどうしよう！」に対して
- ②参加者が考えて「土砂崩れや危ない所から離れて避難する」と回答
- ③すぐに実践してもらうため、その場で「ハザードマップを確認してもらう」

以上となります。ご清聴ありがとうございました